

百人一首大会を開こう — 授業・朝学習・事前準備・大会 —

東京都杉並区立泉南中学校 日高 辰人

はじめに

百人一首は小学校でも教科書教材での音読や「色別百人一首」(百人一首を二十首程度ずつ色別にしたもの)でのかるた会などを通じて親しんでいる。

本校では一年生で五十首(1〜50)、二年生で残りの五十首を覚えて学年ごとに百人一首大会を行っている。

本稿では国語の授業、朝学習、冬休みの宿題、学活等での取り組みを紹介する。

※基本的には冬休み前に授業で百人一首に対する導入を行い、冬休みに宿題として覚えさせ、大会前の一週間の朝学習時間に定着させている。冬休みの宿題には「一 授業での実践」の①〜③を学年の実態に合わせて取り入れているので、全てを行っているわけではないことを付記する。

一 授業での実践

一年生の授業では百人一首の成立について簡単に教え、前半の五十首の中から何首か選び解説する。

生活班で順番に読み手になり、練習を行う。互いに読むことにより、歴史的仮名遣いに慣れるようにさせる。

① 五十首をカードにする。

B4版の画用紙に枠をとり、表面に上の句、裏面に下の句を書かせる。余裕のある生徒には、歌人名・歌集名(古今集・新古今集・それ以外)を工夫して記入させる。(『中学生の国語学びを広げる』一年の巻末折り込みを使用。)

※授業で記入の仕方を説明し、冬休みの宿題とした。

※「資料1」…(作成したカード例)

※「写真1」…休み明けの授業で三人グループを作らせ、読み手のカードを散らし、対戦しているとこ。五十首なので、一試合十分程度で行える。

写真1 対戦風景



資料1 表

資料1 裏

② 大判読み札を作る。

生徒一人一人に、くじ引きで百人一首の読み札を作成させ、廊下等に掲示し興味関心を持たせる。歌は書写の時間に筆ペンで書かせてもよい。

③ 百人一首 調査レポートの作成。

生徒にくじ引きで「私の一首」を決めさせ国語便覧や百科事典、学校図書館や公立図書館などで調べ、まとめさせた。用紙はA4版

のケント紙とし、提出後に廊下等に掲示した。調べる項目等は、①歌意・②解説・③歌人・④イメージ画・⑤調べての感想である。また、裏面は交流カードとし、家族のコメントや友人のコメントを書けるようにした。【資料2】



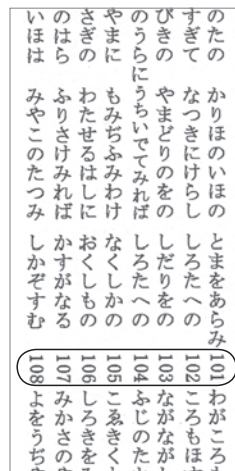
資料2 調査レポート

二 朝学習での取り組み

百人一首大会直前の五日間は、毎朝十首ずつ朝学習時に百人一首を出題した。出題方法は、予告型とランダム型の二種類を生徒の実態に合わせて実施した。予告型は前日にどの十首を出題するかを予告し、上の句に続けて下の句を記入する方法である。ランダム型はランダムに上の句を十首出題し、下の句を書かせるという方法である。また、生徒の実態によっては上の句と下の句を記号で答えさせることも行った。

朝学習や大会前の取り札の確認を行うため

にエクセルに百人一首を平仮名で入力しておくことと便利である。その際、上の句には1〜100、下の句には101〜200を振っておくと、様々な形に加工できる。【資料3】



資料3 番号の付け方

三 百人一首大会を開く―事前準備―

1 対戦グループをくじ引きで選び、発表する。
 ・学年五〜六学級であれば、一グループに全クラスの生徒が入るようにし、二〜三学級であれば、一グループに二名ずつ入るようになる。その際、同じクラスの生徒が隣同士にならないように配慮する。

2 取り札の確認を行う。

・大会前に国語係等と下の句をアイウエオ順に並べた下の句索引を使って、全ての取り札が揃っているか確認する。ない札があれば、板目紙等で札を作り補充する。

3 賞状を作る。

・クラス、個人の二種類を用意しておく。

4 グループ毎の集計表を作成しておく。

・個人やクラス合計がわかるように作成する。
◆大会を行う◆

1 教員の係分担をする。
 ・読み手は全員とし、一人十首は読んでもらう。
 ・集計係（個人・クラス合計をする。）
 ・音響係（六段の調べなど流す。）

2 表彰を行う。

・個人賞は取得枚数で上位から表彰するが、クラス表彰は合計枚数を参加人数で割り、取得率で競うのが公平である。



写真2 スキー移動教室先での大会風景

おわりに

百人一首大会を開くという目標に向けて様々な取り組みを行った。生徒の和歌への興味関心はのび、歴史的仮名遣いへの抵抗感も減じた。これからも様々な取り組みを行っていききたい。

ひだか たつひと 杉並区立泉南中学校主幹教諭、「伝統的な言語文化の学習指導事例集1〜4」（明治図書）の「4. 詩歌・唱歌・芸能を中心とした学習指導事例集」を編集。